

山陰近畿自動車道（佐津～府県境）懇談会（第3回）議事要旨

1. 懇談会の検討の流れについて

〈事務局より説明〉

- ・ 懇談会の流れ及び第2回懇談会概要について
(質疑なし)

2. 地域の意見聴取（第2回）結果について

〈事務局より説明〉

- ・ 第2回意見聴取の結果について

〈主な意見〉

- ・ 約10%のアンケート回収率で地域の意見を反映できるのかという危惧があったが、統計学的に信頼できることを理解した。

〈まとめ〉

- ・ 意見聴取の結果について承認を得た。

3. 対応方針（案）の検討について

〈事務局より説明〉

- ・ ルート帯案の比較・評価と対応方針（案）について
- ・ 懇談会では、比較表に各案の政策目標また配慮事項に対する事務局の評価として「◎」「○」「△」を付記し、これを元に議論いただいた。

〈主な意見〉

- ・ 各案の比較表において、救急搬送における1分の時間短縮差は有意義と思うが、観光における1分の時間短縮差はほとんど意味がない。
- ・ コウノトリの行動範囲への影響をうまく評価できていない。案3は巢塔付近を横切っている。案2は巢塔付近をわずかにかすめる程度であるものの、巢塔を中心とした約1kmの行動範囲に影響する。案1は巢塔を通過するが、現在は利用されていない巢塔である。このため、案3が最も影響が大きく、次いで案2、案1という評価になる。
- ・ 地域産業活性化の観点から、企業としては効率化のため1分でも早ければ評価したい。地域内営業活動や通勤面からも、1分2分でも早ければ違う仕事もできる。案2が企業にとっては有効。
- ・ ジャンクション形状はどのようになるのか。
- ・ 竹野地区にとっては沿岸部に人口が集積しているため、より人口集積地にインターチェンジに近い案1を評価するが、全体的な評価は案2が高いということであればそれで良い。
- ・ 3案とも大差ない。専門家が検討して決定すれば良い。ただし、トンネル・高架橋と

いった構造や地盤・地質状況を踏まえつつ、ルート帯の安全性を考慮してほしい。

- ・ジャンクション候補地「左岸②」付近では、毎日 3,000t の湧水がある。トンネル掘進の際、水脈にあたる可能性があるので十分気をつけてほしい。水による影響が少ないと考えられるのは案 1 と思う。
- ・プラス面の評価が多いが、豊岡中心市街地の空洞化など他にマイナス面の影響もあるのではないか。
- ・香美町住民が希望していた「命の道」としての評価が高かったことを喜んでいる。これを尊重し、案 2 を支持したい。
- ・案 1、2 ともそれぞれ効果がありすばらしい道である。竹野地区にとっては少しでも海岸に近い方がいいと思っているが、海岸までの時間短縮は案 1・案 2 ともそう変わらないので大きな影響はない。皆で検討していい案ができれば良い。

〈まとめ〉

- ・比較表の産業欄（観光・漁業）について、道路利用者の観点から 1～2 分程度の短縮時間差では沿岸部連携以外の項目の評価に差をつけないこととし、比較表を修正する。
- ・各案におけるコウノトリの行動範囲への影響について、懸念事項を明確に示すよう比較表を修正する。
- ・ルート帯（案）の検討においては、インターチェンジ及びジャンクションをセットで議論しなければわかりにくい。今後、インターチェンジ及びジャンクションの位置や形状は慎重に検討すべき。
- ・マイナス効果として自然環境や景観への影響以外に、道路整備がもたらす豊岡市内のインターチェンジへのアクセス道路が渋滞する可能性を考慮に入れておく。

4. 対応方針（案）まとめについて

〈事務局より説明〉

- ・道路整備の必要性、対応方針（案）について

〈主な意見〉

- ・コウノトリの野生復帰は兵庫県が世界に誇れる取り組みである。コウノトリ保護に対する政策目標のウェイトが低いと感じる。
- ・現段階で予測できない課題への対応として、今後の対応・配慮（案）の中に、「新たな課題が判明した場合、（フィードバックするなど）順応的に対応する」と追記できないか。

〈まとめ〉

- ・案 2 を対応方針（案）とする。
- ・それぞれの立場や専門分野からの活発な意見や今後の取り組みへの要望が出された。
- ・今後ルート帯を絞り込む際は、懇談会や地域の意見を十分踏まえ検討を進めるべき。
- ・なお、自然環境（コウノトリ）については、他の多様な生物の環境保全及び地質・地下水等の施工条件、そして地域観光資源や景観資源等への配慮とともに、ルート帯案から整備（計画）ルートの選定に向けた検討（詳細ルート検討）における重要な配慮事項として位置づけていく。

以上